

A 外国語科における育成をめざす「資質・能力」

育成をめざす「資質・能力」

◎ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質能力を次のとおり育成することをめざす

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法（文構造）、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる（基礎的な）技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※ 別添13-1「外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理」（別添資料P.72）

及び13-2「外国語活動・外国語科における教育のイメージ」（別添資料P.73）より作成

(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 学びに向かう力・人間性等

資質・能力を育成する学びの過程

外国語科における学習過程では、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。また、言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、その活動の目的や使用される場面等を意識して行う必要がある。

次期学習指導要領では、小・中・高等学校で一貫した目標の下、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重することや、他者への配慮をしながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが求められています。



各学校で考えてみましょう

▶ 別添13-1「外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理」を読んで、具体的な単元の目標設定や、内容にまとまりのある言語活動例を考えてみましょう。

B 外国語科における「見方・考え方」

「見方・考え方」

外国語科においては、他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界との関わりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、情報や自分の考えなどを外国語で話したり、書いたりして表現しあうことを重視し、整理することが重要です。外国語教育における「見方・考え方」は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」であると言えます。

【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

外国語科の学習では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識した活動を行い、外国語の音声や語彙、表現、文法の知識などを、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）で行われる、実際のコミュニケーションで活用できることが求められています。



◇ 指導の工夫、手立ての例については、こちらまで 

クリック

各学校で考えてみましょう

▶ 五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）のそれぞれにおいて、外国語の音声や語彙を、実際のコミュニケーションで活用する活動例を考えてみましょう。

C 外国語科における教育内容の改善・充実～科目構成の見直し～

外国語科では、小・中・高等学校を通じて5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）を設定するとともに、それぞれの目標を実現させるために、小学校では、新たに中学年からの外国語活動及び高学年からの外国語科が位置づけられています。また、中学校では、高等学校との接続という観点から、外国語で授業をすることが基本とされています。

外国語教育における現状の課題から「改訂」の方向性が以下のように示されています。



小・中学校の外国語（英語）教育における課題

- ・外国語活動を通じて児童の学習意欲が高まっているが、進学や進級した後に、それまでの学習内容を発展的に生かし切れていない
- ・中学校においては、「話すこと」及び「書くこと」ことなどの言語活動が十分におこなわれていない

中学校 外国語(英語) 科

- ・生徒にとって身近なコミュニケーション場面を設定し、実際に外国語を活用させる活動の充実
- ・高校との接続の観点から、外国語で授業を行うことを基本

小学校高学年 外国語（英語）科

- ・発達段階に応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的・系統的に学習

小学校中学年 外国語活動

「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて、外国語への慣れ親しみや、動機付けを高める

現状の課題から「改訂」への方向性

高等学校の外国語（英語）教育における課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

【現行科目】

コミュニケーション
英語基礎

コミュニケーション
英語Ⅰ～Ⅲ

英語表現
Ⅰ～Ⅲ

英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ（仮称）

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成
- ・明確な目標（英語を用いて何ができるようになるか）を達成するための構成・内容
- ・複数の力を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着（高等学校への橋渡し）を含む

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）

- ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて、専門科目教科「英語」の各科目も見直し

⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ、エッセーライティングⅠ・Ⅱ